

## 講演

# グローバリズムと多民族・多文化社会

—中国の現実、世界の課題—

<日時> 2008年11月25日(火) 17:00-19:00

<場所> 神戸大学国際文化学部・大学院国際文化学研究科 E棟 4F 大会議室

<演題> 講演1 郝時遠 「中国の民族自治政策とモンゴル族」

講演2 シヨニマ 「チベット社会：歴史と現状」

講演3 楊聖敏 「中国のイスラーム民族の歴史と現状」

<参加人数> 42名

---

## 中国の民族自治政策とモンゴル族

講師 郝時遠 Hao Shiyuan 氏略歴

モンゴル族。中国民族学会長、中国社会科学院人類学民族学研究所長、学部委員兼法・政・社会学部委員長。専攻は中国の民族問題と民族政策研究。主な著作に『中国の民族と民族問題』、『中国民族関係史綱要』、『現代世界民族問題と民族政策』、『新バールコ右旗の蒙古族』など。

私は主に中国の民族自治制度について、そしてその制度が内モンゴル自治区においてどのように実践されているか講演したいと思います。

世界中のどの国も、自国の民族問題を処理する、あるいは対応するために独自の制度を持っていると思われます。例えば旧ソ連の連邦制、あるいはスペインにおける、地方自治の中での民族自治政策などが挙げられると思います。しかしその中で中国の民族政策の特徴というものは民族と区域を結びつける制度であるといえます。この特徴によってまた別の新しい特徴が生まれました。つまり、民族という側面からいえばある民族による自治ということになります。一方、地域という側面からいえばその地域に居住しているどの民族も同時に、その地域の他民族の政治に参加しているということになります。

今回私がとり上げる中国の内モンゴル自治区は1947年に設立されましたが、これは中国最初の民族自治区にあたります。自治区が設立されて60年以来、内モンゴル自治区は色々な側面において中国の経済・社会発展に大きな成果を上げました。特に21世紀に入

ってから内モンゴル自治区の経済発展のスピードは、毎年の経済成長率が20%以上あるということからも、非常に速いといえます。それにともない経済の実力も高まりつつあり、これらのことは、中国の経済学者によって「内モンゴル現象」と呼ばれ、大変な関心呼び起こしています。

経済学者はなぜこの内モンゴル現象に大きな関心を寄せるのでしょうか。それは、内モンゴル自治区というのはもともと中国の中でも経済発展の遅れた地域であったからだという事です。中国における経済発展はまず中国東部から始まったのですが、2000年になってはじめて経済発展の中心が西に移ることになりました。いわゆる「西部大開発戦略」です。西部にあるにもかかわらずこのような大きな経済発展を実現するという事に経済学者たちは大変注目しています。経済学者たちがその経済発展に驚いたのは、その発展のパターンについてだけではなく、その地域社会が非常に安定しているという点です。これが彼らが最も関心を寄せている点です。

内モンゴルにおける経済発展はやはり自然資源の開発と遊牧区の発展に支えられています。自然資源、あるいは草原の広さの点からいうと、これは中国随一の地位を占めています。例えば、内モンゴルの草原の面積は中国の草原面積の20%を占めています。森林については17%を占めています。このあたりで採れる120種類以上の自然資源のうち7種類が中国一の保有量を誇るものです。2007年のデータで説明しますが、この年の石炭の生産量、畜産品、牛乳生産量は中国一です。このように、内モンゴルの経済発展はエネルギー資源と畜産資源によって支えられてきたといえます。

しかしこの経済発展の裏で考えないといけないことは、やはり環境の問題とこれが持続発展可能かという問題です。地球温暖化が叫ばれている中で、一地域における人為的な開発は中国のみならず世界全体に深刻な影響を及ぼすことになりかねないからです。1990年代以来内モンゴルの環境はだいぶ変わりました。西部における砂漠化は一層深刻なものとなり、東部においては砂漠化と同時に草原の質の低下も問題となってきました。また、1990年代半ばになると黄砂の問題がこの地域でもとりあげられるようになりました。この黄砂は朝鮮半島まで飛ぶこともありますし、また東京でも黄砂の影響でマスクをつける人がいるというくらい深刻なときもあります。この問題は最近では少しずつ改善されているようですが、まだ完全な解決への道のりは遠いといえます。

これはもちろん地球温暖化の影響ともいえるのですが、やはり第一に考えるべきは人類の自然環境開発の影響でしょう。特に市場経済化によって人々は、利益を追求しながらも開発がどのくらい環境に影響を与えたのか、考えることをやめてしまったように思えます。例えば、ヤギから取る細く柔らかい毛は市場では非常に高い値段をつけられています。そして市場価格がだんだん上昇することによって、国民はますますヤギを飼うようになっていきます。しかし過剰なヤギの飼育によって、草原が失われていきました。ヤギが草を食べつくし、さらに草の根まで食べてしまうことによって、草原が自然のまま再生すること

は不可能になりました。

このような問題に直面して、中国政府や NGO 組織、環境保護団体はさまざまな対策を講じてきました。例えば過剰な森林の伐採を禁止したり、自然保護に関する法律を整備したりしました。また 2007 年までに内モンゴル自治区に設置された自然保護地区もすでに 203 箇所を増えています。そして家畜の数量とその食料のコントロールも行っています。そのほか、牧場の合理的利用を促したり、企業に対して汚染物質の廃棄を禁止したり、その管理を徹底させたりする法律も整備させつつあります。

私は 2005 年から毎年内モンゴルに行って調査を行っていますが、年を追うごとにこのような環境保護対策は確実によい効果をもたらしていることを実感します。例えば、草原の成長がかなりよくなっていることのほかに、オルドス部の砂漠の中にオアシスが現れて人々の注目を浴びていることが挙げられます。このオアシスは実は日本人の貢献や尽力によるものです。その嚆矢は鳥取大学名誉教授の遠山正瑛先生ですが、彼はその後半生を中国の砂漠緑化に捧げました。遠山先生はその成果を讃えられ、国連から人類貢献賞（人類に対する思いやり市民賞）、内モンゴル自治政府から荣誉公民（名誉市民）の称号を授与されています。そうして遠山先生だけでなく、彼の活動に賛同した日本人たちが 1 万人以上もこの地を訪れ、植樹活動に参加しています。その意味では内モンゴルにおける経済は、国際社会とのつながりなくしてはありえず、その経験を吸収することによって発展してきたといえます。

しかし総じて言えば、なお内モンゴル自治区は中国において発展が十分に実現している地域とは言いかねます。発展途上地域が直面する 2 つの問題に関してまだ改善されていないところがあるからです。1 つ目は、これが一番の問題なのですが、生態環境の問題です。これは内モンゴル自治区だけの問題ではなく、常に人間の経済活動についてまわる、地球規模かつ長期的な問題です。生態を保護し、常に環境のバランスを維持しておくことは人類にとって長い道のりです。その意味において内モンゴル政府は現在、生態環境保護のための第一歩を踏み出したばかりであり、現実には相変わらず厳しいものだと思います。

2 つ目は内モンゴルの経済発展という社会の大きな流れの中で、少数民族の伝統文化というものがどのようにして維持できるかという問題です。中国には少数民族自治制度がありますので、それなりの政策はとられています。しかし、これはどこの国も同じですが、人間が近代的な生活を追求する一方で、環境問題や伝統文化維持の問題を忘れてしまうことが往々にしてあります。そして人間は経済がある程度発展してはじめて伝統文化の重要性に気づきます。しかしそのときにはすでに伝統というものはあいまいになっており、結局伝統を再編するほかないこともしばしば起こります。再編された伝統文化は、もしかするとともにあつたはずの伝統文化よりも文明的であるかもしれませんが、もともとあつた伝統文化の要素をしっかりと受け継いでいるとは言い切れません。

そうして 21 世紀に入ってから、いかに人類の伝統文化を保護、あるいは維持させる

かに関してこれまで以上に関心が注がれています。中国の少数民族もその長い歴史の中で、たくさんの知恵を残しています。例えば、内モンゴルの遊牧民族の文化様式は、他の人から見れば遅れているとみなされがちですが、家畜に草原を完全に食い尽くさせずに牧草を追い求めて遊牧するのは、草原の維持、つまり環境保護の面から見ても非常に合理的な方法である、ということに現代の人々はようやく気づき始めています。そのような意味で伝統文化を維持するということも現代文化の重要な一面になりつつあります。また、伝統文化の維持は何も少数民族だけの問題ではなく、中国の主要民族である漢族においても重要な問題であり、むしろ、少数民族よりも漢族の伝統文化維持の方が現在厳しい局面にあるのではないかという議論もあります。例えば、中国の文化省は全国を対象に無形文化財を保護する政策を掲げていますが、それは特に少数民族のものを中心に行っていることからその一端がうかがえるのではないかと思います。

時間がなくなってきましたので結論として2点申し上げたいと思います。まず、近代化というのは、固定化したモデルではなく、一種の品質、もしくは質量といえます。そのため世界の中において中国は中国独自の近代化の道をたどってきましたが、それと同様に、中国の少数民族居住地域も地域独自の近代化への道を歩むことができるということです。2つ目に、いかなる近代的な発展にしても、伝統を無視することはできないし、してはいけないということ。必ず伝統文化の中に近代化の知恵を吸収させるべきです。このことによって、先人たちが残した知恵を豊富に、そして多彩なものにすることができます。その意味では、決して簡単なことではないと思いますが、今発展中の国々は自国の発展する道をそれぞれ独自に見つけなければならないということだけではなく、先進国になった国々も、自国の発展した道を今一度見つめなおさなければならないのではないかと私は考えています。

# チベット社会：歴史と現状

## 講師 シヨニマ Xirao Nima 氏略歴

チベット族。中国中央民族大学副学長、チベット学研究所長。専攻はチベット歴史・文化研究。主な著作に『西藏歴史地位辯』、『近代藏事研究』、『西藏古代法典選編』、『蒙藏委員会档案中の西藏事務』など。

今日はチベットの歴史と現実について、主に「人権」をめぐってお話ししたいと思います。西側では、一部の人がチベットの「人権問題」という形でチベットを取り上げます。中国は発展途上国であり、もちろんそれに関わるたくさんの問題がありますが、チベットは中でも特に地理的条件にまつわるさまざまな問題が存在します。しかし、チベット社会の発展が目覚しいことも間違いがありません。今日はチベットの人権に関してまず昔の状況、そして現在の状況の、2つの部分に分けてお話ししようと思います。

昔のチベット社会は、領主あるいは僧侶による独裁が行われていた封建農奴制社会でした。これに関して2の例を挙げようと思います。1つはチベットの人口のわずか5パーセントしか占めていない支配者層はチベットのあらゆる生産資源を独占していました。しかし、95パーセント以上を占める農奴たちは貧乏生活を強いられていました。そしてその農奴は領主の財産にもなっていました。領主は農奴の労働能力や性別によって値段をつけて他の領主に譲渡することができたりしました。

私はチベット族ですが、北京から来たことで皆さんは私の話を信じないかもしれませんが、この講演では、チベットを訪れた学者たちの記録を使って説明しようと思います。

まずはフランスの著名なチベット学者を取り上げようと思います。彼の話によるとこれらの農民たちはみな農奴であり、自由がなく、自分の故郷を離れることも許されてはいないということです。昔のチベットにおいては農奴と領主の関係は搾取と非搾取の関係です。平等ということは全くいえません。農奴と領主のこの関係は古来に作られた法典を典拠としており、それは1959年まで使われてきました。この法典は上中下の3つからなっており、しかも各3巻からなっておりますので、全部で9巻になります。これは昔のチベット政府の規則や考え方の中心となっていました。

ここに2枚の写真があります。1枚は手かせ足かせをかけられた人の写真です。もう1枚は農奴が領主を背負って山道を登っている写真です。この法典の中では人々の命に値段がつけられています。上層階級の命の値段は無限であるとされていますが、下層階級には値段がつけられます。また罪に関しても、下層の人が上層の人に対して行った罪、あるいは下克上に関しては厳しく罰せられますが、上層の人が下層の人に対して行った罪は軽くなります。以上の例は、昔のチベットで実施されていた法典といえますか法律によるものです。

昔のチベットにおいてはまた、宗教信仰の自由もまた認められていませんでした。宗派・教派間の対立もまた一般的でした。新しい寺が作られたときには領主たちは自分の代わりにたくさんの農奴を無理やり僧侶にさせたといえます。

次に昔のチベットの社会発展について 1 つデータを取り上げたいと思います。1952 年以前は、自分の家を持っていない人は 90% でした。しかし当時 37,000 人いたチベットの首都ラサ市内においてはホームレスだけで 5,000 人に達しているということでした。

次に、新しいチベットの権利についてお話ししたいと思います。中華人民共和国が成立してから中国はチベットに自治区を設立しました。そして中国の法律によって、漢族の国民と平等な権利を享受するだけでなく、地方独自の特殊な権利を享受することができました。つまり民族区域自治制度による権利です。

ここでまた 1 枚の写真を紹介しましょう。1959 年に撮った写真なのですが、これは当時の農奴たちが領主に所有されるときに交わされた契約書に火をつけているシーンですが、見て分かるように農奴だった人たちはみな非常に喜んでいて、そして彼らは選挙権と被選挙権を持つことになり、90% 以上の住民が選挙に参加しました。また、自治区の中の市町村では、少数民族出身の役人は 9 割以上を占めることになっています。少数民族出身の幹部の育成にも力を注いでおり、チベットでは自治区の主席から県知事まで全員チベット族出身者で占められています。

チベットの人々は自分たちの文字を使って教育や文化を発展させる権利も持っています。チベットにおいてはチベットの言葉と中国語の両方が使われることになっていますが、チベット族は主にチベット語を使っています。教育の発展も目覚しく、昔のチベットにおいては 95% 以上の農奴が教育を受ける権利がありませんでしたが、自治区になってからその権利を享受しました。当初児童の就学率は 22% にも足りなかったのですが、今日ではそれは 98% に達し、小学校は 884 校、大学は 6 つを数えるほどになりました。チベットでは小学校から大学までの教育費は免除されています。また、遠いところや僻地から来ている児童に対しては国が衣食住に責任を持つことになっています。このように、自治区ができてからの文化や教育の発展は目覚ましいものがあることが分かります。

これからの課題としては、チベットの文化遺産の保護と整理を実施することです。チベットでは大乘仏教の経典がすでに出版されています。また国が指定している無形文化財のうち 61 点はチベットに関するものです。チベットでは、宗教信仰の自由と伝統を維持する権利が保障されています。

ここで、オーストラリアのチベット研究者の文言を取り上げたいと思います——「欧米の研究者は『チベットの文化が破壊されている』といっているが、私はチベットに実際行き、自分の目で確かめてきた。そこで私は彼らの発展する姿を目の当たりに感じた。文化の力も十分に感じた。これは中国文化の一部でありまた世界文化の一部である。私はチベ

ット文化が破壊されているということには同意できない」。これに関して、2枚の写真を見てみましょう。1枚目はラサ郊外の農民たちが作ったチベット芝居の上演写真です。もう1枚はラサの劇団が海外公演をしたときの写真です。これも、チベットの文化遺産が脈々と継承されているいい例といえるでしょう。

次に、チベットの経済発展についてですが、近年特に未曾有の発展をしているということが言えます。というのは、チベットの農民、遊牧民たちの一人当たりの年収がそれ以前に比べてかなり上昇したということです。2007年においてそれは2788元にも達し、前年に比べて14.5%も増加しています。2002年と比べるとそれは83.8%も増加しています。発展のスピードも全国平均よりも7.3%も高いです。

このように、チベットにおいては信仰の自由も保障されておりますし、目覚ましい経済発展も遂げていますが、欧米の一部の人々は未だに中国のチベット政策を非難しています。なぜこのような問題が生じるのでしょうか。

あるカナダのチベット学者によると、欧米の一部の人々は自国の国益に基づき、チベットを一つの外交カードとみなし、その国の世界戦略にそのカードを利用しているということです。それを示す例として、ある外国の政治家は「西側は対中戦略を持っている。チベット問題は中国に対する一枚の重要な外交カードになりうる」とはっきり書いている、ということが挙げられます。これは2008年3月28日、ドイツのフランクフルトの新聞上で書かれた記事の一部です。

ここで私の結論なのですが、欧米の一部の人々はなぜチベットの人権問題に関心を持っているかという、道徳観やチベットの人々にたいする同情心から来たものではなく、自国や西側のヘゲモニーです。それを推進するために民族問題を煽って中国を牽制しようとしているのです。そのような勝ち負けを越えて、世界の発展同様、中国もチベットも発展しなければならないという結論をもって私の発表を終えさせていただきます。

# 中国のイスラーム民族の歴史と現状

## 講師 楊聖敏 Yang Shengmin 氏略歴

回族。中国民族学会副会長、中央民族大学人類学と社会学院長。専攻は西域民族歴史文化研究、新疆と中央アジア民族問題研究。主な著作に『回紇史』、『資治通鑑突厥回紇史料校注』、『黄河流域の服飾文化』（編）など。

私は、新疆の民族を主として以下の3つのことについてお話ししたいと思います。1つは中国のイスラムについて、2つ目は新疆の民族の概況について、3つ目は私が行った民族に関するアンケート調査の結果と分析についてです。

では早速1つ目の、中国のイスラムについてお話しします。中国にはイスラム民族は10集団あります。そして中国全土で彼らは35,000以上のモスクを持っており、45,000人以上のウラマーがいます。中国のイスラムで一番多いのは回族、そして2番目がウイグル族、3番目がカザフ族となっています。今からイスラムにおける民族の分布図をお見せします。このうち70%以上のイスラムが新疆ウイグル自治区、青海省、甘粛省、寧波、そして回族自治州に居住しています。

続けて2番目、新疆の民族の概況についてお話しします。これは新疆の地図ですが、真ん中に横たわっているのが天山山脈です。この山脈によって新疆は北部と南部の2つの部分に分けられます。ウイグル族は主に南部の、砂漠周辺にあるオアシスに居住しています。新疆ウイグル自治区は2000年の統計によると人口1700万ですが、そのうちウイグル族は825万、漢族は700万、そしてカザフ族は127万、残りの民族の人数は100万人以下です。

新疆には46もの少数民族が存在しますが、少数民族の総数は新疆の総人口の66.79%を占めています。新疆は中国の面積の6分の1を占めており、豊富な自然資源を持っています。そのうち、石油と天然ガスは中国の総生産量の3分の1を占めています。

では3番目に、私が新疆で行った調査について紹介したいと思います。ウイグル族と漢族の関係についてのアンケート調査と、その分析です。なぜこの2つの民族を取り上げたかといいますと、この2つの集団の人口は、新疆の総人口の80%を占めており、この2つの民族の関係は新疆の社会の安定に非常に関わってくるからです。外国の研究者も新疆で調査を行い、分析して結論を出していますが、その大半が2つの民族関係はあまりよくないとしています。彼らから見るとウイグル族の大半は政府に対して不満を持っている、と結論付けているものが多いです。

果たしてそうなのかということで、私は2004年と2006年に新疆の色々な地域、階級の3000世帯を対象としてアンケート調査を行いました。アンケートの項目の設定においては



人類学で国際的に通用している指標を参考にしました。

そしてその結果ですが、まず2つの民族間で、お互い相手をどのくらい理解しているか、という質問に関しては80%以上の方が、相手を理解していると答えました。そして漢民族にウイグル族の友人が、ウイグル族に漢民族の友人がいるか、という質問に関しては70%の方がいると答えています。ウイグル族の側から見ますと、エリート、商人、そして大衆という3つの職業・階層別分類の中では、エリート層が比較的漢民族の友人を持つ人が多いのですが、一番多いのは商人でした。ちなみに、中国語ができる人の割合が多いのはエリート層でした。また、他の民族との結婚はできるか、あるいは許されるかという質問には、ウイグル族は29%の人が可能だとするのに対して、漢民族は68%もの人が可能としています。この2つの民族の宗教信仰は全く違うので、このように数字にかなり開きが出たものと思われます。もう1つは、自分の民族出自に誇りを感じているかどうかという質問なのですが、ウイグル族の人々の90%以上が誇りを持っていると答えているのに対し、漢民族はわずか50%しかいませんでした。先ほどの職業・階層別分類では、誇りを持っていると答えたのが一番多かったのは大衆でした。そして、自分が中国人として誇りを持つかという質問に対しては、ウイグル族は90%が誇りを持っていると答えたのに対し、漢民族は80%にとどまっているという結果が出ました。職業・階層別分類では、出自のときと同じようにこれも大衆が一番多いという結果が出ました。逆に、民族、国家、個人、家庭のうち、あなたにとってどれが一番大切かという質問に対しては、国家と答えた人はウイグル族の61.8%であったのに対し、漢族は72.6%にでした。また、相手についての認識に関する質問では、例えば、相手の民族は聡明であるかとか清潔であるかという質問もあったのですが、これについてはどちらも漢民族のウイグル族に対する評価より、ウイグル族の漢民族に対する評価の方が高いという結果が出ました。2つの民族の関係は良好であるという質問に対しては、ウイグル族が86%であるのに対し、漢民族は77%でした。また、改革・開放以来自分の生活が改善されたか、そして生活水準に満足しているかという質問に関しては、ウイグル族は74%、漢民族はわずか63%でした。地域の治安について満足しているかという質問に対してはウイグル族の90%以上の方が満足していると答えています。漢族は70%ほどでした。そして東トルキスタン独立運動に関しては、88%のウイグル族が反対の意志を表明しています。

このことを踏まえて私の結論を申し上げますと、新疆においてはウイグル族と漢民族の関係は基本的に良好であるということ、新疆の情勢は安定しているということ、そして、2つの民族間関係、そして収入をはじめとする日常生活への満足度に関してはエリートよりむしろ大衆・市民の方が評価が高いということがいえます。もちろんエリートたちの世論に対する影響は相変わらず大きいものであり、特に民族関係に関するものは顕著です。そういうことから、エリートたちが民族関係に対して悪いとする見方を進んで強めていけばいくほど、安定している新疆の情勢に悪影響を及ぼすことになるのではないかと私

は懸念しています。以上で私の発表を終わらせていただきます。